



— Press Release —

2025年1月16日

学校法人東北学院／岩手県滝沢市

農地集積に向けた共同研究 岩手県滝沢市で実証事業 Web アプリで農地利用を効率化

東北学院大学、岩手県滝沢市、株式会社岩手銀行及び一般社団法人 Tannbo は、農地の集積・集約に向けたマッチング事業の実施とその有効性の検証を目的に共同研究を実施しており、この度滝沢市で実証事業を行いました。

【実証事業の背景と目的】

日本の農業における問題点の1つは農地の分散であり、生産性向上の大きな阻害要因となっています。問題の改善には、地域の農業の担い手の農地面積を拡大すること(=農地の集積)や、農地の利用権の交換などにより農地の分散を解消(=農地の集約)することが有効です。農地の集積・集約事業は現在、自治体や農地中間管理機構(以下農地バンク)が進めていますが、滝沢市の上・中鵜飼地区では、地域内の農家から農地バンクへの農地の貸付は進んでいるものの、担い手への集積については課題があります。

【実施概要】

実証事業では、本学経済学部経済学科の黒阪健吾准教授及び一般社団法人 Tannbo が研究開発している Web アプリ(※)を用いて参加農家から耕作意向情報を入手し、農家一人ひとりの意向に基づいた農地の集積案を作成しました。

- ・実施地区: 岩手県滝沢市 上・中鵜飼地区
- ・対象農家数: 112 軒(参加農家は 24 軒)
- ・対象筆数: 512 筆
- ・実施期間: 2024 年 10 月 18 日～28 日

【主な成果】

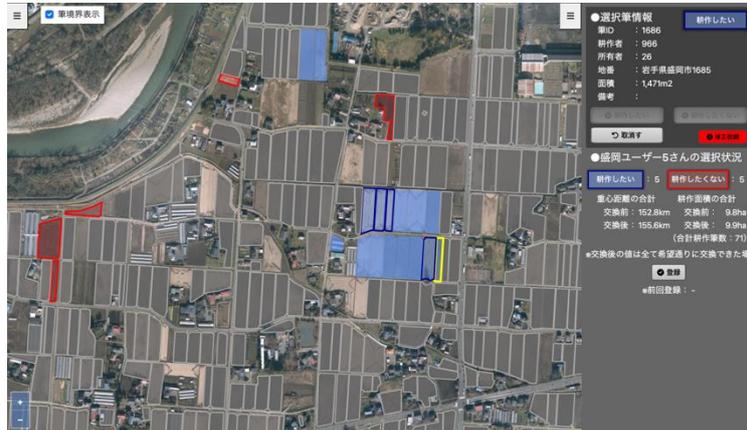
- ・Web アプリにより参加農家から現在ある農地に対しての耕作意向情報を収集し、地域の担い手と農地利用について検討した結果、14 件のマッチングが生まれました。このマッチングに基づき、該当農地の利用権の変更を進めています。
- ・このマッチングにより農地バンクが実施する機構集積協力金交付事業の要件を満たしたため、協力金が援助され、農業機械の購入や鳥獣害対策、農道の維持管理などに利用されます。

【今後の展望】

本実証事業の成果物である農地の集積案を農業経営に活かすことで、地域の農業所得向上に貢献することが期待されます。また今後は農地バンクの機構集積協力金交付事業も活用して効率的な農地利用ができるよう、引き続き農地の集積及び集約を促進する研究を進めていきます。

※ Web アプリの概要

地図上に表示される農地の情報を参考にして、新たに「耕作したい農地」と、現在耕作しているが今後は「耕作したくない農地」という2種類の耕作意向情報を入力するものです。この情報をもとに農地のマッチングを行うことで、事業に参加する農家の同意が得やすい農地の集積案や集約案を作成することができます。



Web アプリの操作画面

取材を希望される場合は、別紙「取材・撮影申込書」をご記入の上、下記問い合わせ先宛に電子メールでご送付ください。

<p>【東北学院大学】 本件に関する問い合わせ先</p> <p>担当窓口：経済学部経済学科 黒阪 健吾 TEL：022-721-3304 E-Mail: kkurosaka@mail.tohoku-gakuin.ac.jp</p>	<p>(報道に関すること)</p> <p>学校法人東北学院 法人事務局広報部広報課 TEL：022-264-6423 / FAX：022-264-6478 E-Mail: koho@mail.tohoku-gakuin.ac.jp</p>
--	---

<p>【岩手県滝沢市】 本件に関する問い合わせ先・報道に関すること</p> <p>担当窓口：経済産業部農林課 海老澤、牧野 TEL：019-656-6537 E-Mail: norin@city.takizawa.iwate.jp</p>
--